

●第9回 「みんなが知ってる2万5千分1地形図とは」



「2万5千分1地形図」って良く聞くけど・・・



2万5千分1地形図「東京首都」の一部

「2万5千分1地形図」は国の基本図なんじゃ。詳しい人に聞いてみよう！



日頃、わたしたちは当たり前のように地図を使っており、毎日の生活にかかせないものになっています。2万5千分1地形図（以下「地形図」という。）は、日本の国土約38万平方キロメートルの全域を4,419面でカバーする国の基本的な地形図です。

その特徴は、実際には250メートルの長さのものを図上1センチメートルの長さで表し、1面あたり約100平方キロメートルの範囲の国土の情報が記載されています。地形図には、道路、鉄道、河川、建物、耕作地の状況、それから土地の高低を表す等高線などが統一した基準で描かれています。

また、地形図の整備の歴史は古く、国土地理院の前身である参謀本部陸地測量部が明治41年（1908年）に整備を開始しました。その後、一世紀以上の長きにわたって整備が進められ、平成26年（2014年）に北方四島の地形図の刊行をもって国土全域の整備が完了しました。整備した地形図は、最新の内容を維持するための更新を継続しています。

このように地形図は、土地の移り変わりなど国土の管理に必要な基礎的な情報を記録するとともに、安全・安心を確保するための防災・減災活動の支援、さらには国土の範囲を明示するという国家の本質に関わる重要な役割を果たしています。（基本図情報部）